

令和 5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470200740	事業の開始年月日	平成13年4月1日
		指定年月日	令和3年4月1日
法人名	医療法人 ゆりの会		
事業所名	グループホーム ゆり苑		
所在地	(〒221 - 0802) 神奈川県横浜市神奈川区六角橋1-4-3		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和6年2月8日	評価結果 市町村受理日	令和6年3月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できるだけ入居者様ご本人の意思を尊重し、その人らしい生活をしていただけるよう支援しています。コロナ禍以前は1年に数回は外出レクリエーションを実施していましたが、現在は感染状況を鑑みながら外出レクリエーションの再開や、季節行事や誕生日会等には入居者様に十分楽しんでいただくことができるよう力を入れています。料理上手な職員がたくさんおり、毎日3食、温かくて美味しい食事を提供しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和6年2月21日	評価機関 評価決定日	令和6年3月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇ 利用者の健康を支える手作りの食事 ・利用者が健康で楽しく過ごせるためには、食事が第一と考え手作りの食事にこだわっている。商店街で食材を購入し、利用者の好みに合わせた手作りの食事を提供している。利用者は準備から片付けまでの場面で手伝っている。食事は職員も同席し、会話を楽しみながら食事をしている。 ◇ 活発な近隣との交歓 ・利用者の大半は近隣の出身者であり、事業所周辺が利用者の馴染みの場所となっている。町内のお祭りやキャンドルナイト等の行事に参加したり、近隣の保育園と交流を行っている。節分には、近隣のコンビニで恵方巻を買うと、コンビニの店員が鬼の衣装を着けて買い物を届けてくれて、利用者と豆まきを楽しんだ。 【事業所が工夫している点】 ◇ 夜間帯の時間に合わせた避難訓練 ・避難訓練を夜間帯（18～19時）に実施した。周りが暗い中での避難誘導や夜勤者2名のみでの声かけや避難経路の確認にいろいろ気付きがあった。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム ゆり苑
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の自由の確保・自己決定・自立援助の3つを柱とした基本理念を意識して入居者様との関係作りに努めています。商店街の中という立地条件を活かし、地域の方とのつながりを感じられるように支援しています。	・理念は事業所玄関に掲示し、職員が出勤時に気が付くようにしている。 ・職員は事業所を利用者の住まいとして考え、利用者がそこで自由に暮らせるよう支援し、理念の実践をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りやキャンドルナイト等の行事に参加したり、近隣の保育園と交流を行っています。（現在感染症対策の為保育園との交流はできていません）また運営推進会議を通じ、町内会の方や民生員さんとの良い情報交換を行うことができます。	・利用者の大半は近隣の出身者であり、事業所周辺が利用者の馴染みの場所となっている。 ・12月に行われるキャンドルナイトには、利用者が牛乳パックでキャンドルを作成し、商店街に展示してもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の商店街・町内会の防災訓練に積極的に管理者が参加しています。交流の際、認知症の方々の理解や声掛け等支援の方法をお伝えする事で地域の方へ発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行い、利用者やサービス状況報告しています。構成員の方からは貴重な地域の情報提供をして頂きサービスの向上に活かしています。	・運営推進会議は、利用者家族（3名）、民生委員、地域包括職員、事業所管理者で構成され、12月から対面で会議を行っている。 ・避難訓練を夜間帯で行ったことに対して、消防署から実際に役立つ訓練だとの講評を得た。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時連絡を取り、サービスの状況を伝えたり相談事をしています。直近では12月27日に市町村担当者（保護課）様が来苑され面談実施しております。なお、運営推進会議の報告は毎回行っています。	・入居者に生保者がおり、生活支援課から職員が来訪し、面談を行っている。高齢・障害支援課とは、介護保険更新時に連絡を取っており、その他に介護保険に関する相談事を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化検討委員会を通じ、職員には身体拘束となりうる具体的な行為について正しく理解するよう取り組んでいます。委員会を年4回開催し、適切な資料に基づいた内部研修を行っています。	・身体拘束適正化検討委員会を2か月ごと（年4回）実施し、毎回テーマを決めて研修を行っている。 ・職員が何気なく行っている事が拘束にあたる可能性がある場合はその場で注意している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を通じ、どんなことが虐待となるのか定期的に資料を用い、学ぶ機会・考える機会をもっています。その結果を現場で活かすよう全職員努めています。委員会は身体拘束適正化検討委員会と一体的に年4回開催実施しております。	・虐待防止委員会時に併せて研修を行っている。資料の読み合わせを行内、意見交換をして、職員のどんな行動が虐待にあたるかを確認する。 ・職員は、年1回自己点検シート使って、自己評価をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用い、学ぶ機会を提供しています。実際、成年後見人制度を活用されている入居者さんもおられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期的に面会に来られるご家族には行っています。来ることが出来ないご家族には電話やメール等で定期的に連絡し、何か疑問があればご連絡いただくようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じ、意見、要望を外の方へ知っていただく機会とさせていただいています。ご家族の意見要望は常に全職員と共有し、サービス向上に努めることにより運営に反映させています。	・運営推進会議に3名の利用者家族をメンバーになってもらい、意見を聞いている。 ・利用者家族とはラインを使って近況報告や、連絡事項の連絡をして、家族からタイムリーな報告があると好評を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に現場に入り、職員の意見や、提案に耳を傾け運営に反映させています。代表者は医師であり、近隣にはいないため、メールにて意見や提案、相談事を伝えるよう全職員に伝え、提案等を聞く機会を設けています。	・職員会議にはシフトの関係で全員が集まれないので、個々に話を聞く機会を持っている。 ・歩行不安定な利用者のケアを2名で行うことや、服薬について介助の方法を再確認した。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告により現状を把握し、改善に努めています。	・働きやすい職場作りのために、理事長をはじめ管理者も、多数の人の意見を聞くようにしている。 ・勤務時間や人間関係についての相談があり、シフト調整を含め検討を行っている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人手不足や、感染症の状況を鑑み、職員全員に法人内外の研修を実施することは現在あまり出来ておりませんが、直近では昨年10月に管理者が『普通救命講習Ⅰ』を受講しています。また、別の職員は実務者研修を現在取得中であり、可能な限り様々な研修を受ける機会の確保を勧められています。	・実務者研修や実践リーダー研修等の資格取得者に対しては、受講料補助と手当で報いている。 ・分からないことは、仲間の職員から教えてもらうコミュニケーションの取りやすい職場を目指している。	・職員の資質向上のため、年間研修計画の策定が望まれます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者からの勧めにより、管理者は定期的に横浜高齢者グループホーム連絡会や、徘徊認知症高齢者関係機関連絡会(かめ友ネット)等参加出席しており、同業者や区役所・警察署・消防署・医療機関・地域関係団体等と交流する機会を頂いております。交流の際に情報交換共有することで、サービスの質を向上させていく取組みに努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族の要望に耳を傾け、ご本人が安心してサービスを受けられるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始からその後にかけて、ご家族の様々な不安・要望等に耳を傾け、できるだけその要望に応じるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族とよく話し合い、必要としている支援を見極め、必要なら他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事・レクリエーション・季節の行事・誕生日会等を共に行ったり、楽しく会話することにより、良い関係作りに努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に面会されたり、時折一緒に外出したいというご家族のご要望を叶えることによって、ご家族とご本人の絆を大切にしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣から入所された方は、苑周辺の商店街等に馴染みの方々がいらっしゃるのので、散髪や散歩がてら会って交流できるように支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所近隣出身者が多く、散歩の途中で知り合いの店に寄ったり、顔馴染みの銀行に立ち寄る利用者がいる。 ・家族の面会は事務室や居室で自由に行っている。家族も事業所とは顔馴染みである。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者がどのような個性で利用者同士の関係性がどのようなものかは全職員が把握し情報共有しているので、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も手紙やメールをいただき、その後の様子についてお聞きしそれまで培ってきた関係性を大切にしています。必要な場合は相談・支援を行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各入居者様の希望をお聞きし、介護計画に反映させています。	・利用者には、一人ひとりに合わせ対応をとっており、利用者全員が最後までこの事業所で過ごしたいと言っている。 ・担当者会議で、利用者の状況を職員間で共有し、ケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・サービス利用の経過を把握し、今後もその人らしい暮らしができるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に現場に従事することにより、一人一人の現状把握ができるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎回の職員会議で各入居者様の現状について考え、必要なケアを検討しています。また、ご本人・ご家族・医療関係者等と定期的に話し合いをしたり、連絡を取り合い、意見・要望・アイデアを介護計画に反映させています。	・介護計画の有効期間は1年間となっている。毎月の職員会議で利用者状況の報告を行い、変化等がないかを確認している。 ・利用者家族の意見は、面会時に聞き取りを行って介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	詳細な記録をすることに努め、情報を共有し、ケアの仕方や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに応じた支援を提供することにより柔軟なサービスを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、その資源を有効に使い、本人が暮らしを楽しむよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿った適切医療を受けることができるよう支援しています。	・事業所の隣にある運営法人の医療機関を入居前からかかりつけ医としている利用者が多い。法人内別院の看護師の定期訪問があり、医療面・健康面で大きな安心感がある。 ・通院時は原則家族対応だが、職員の付き添いも柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に必要な情報提供・相談をし、適切な看護を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師・看護師・医療連携担当者様等各々との良い情報交換や相談を都度行い、本人が安心して治療を受けることができるように努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、本人・家族との話し合いの場を持ち、重度化した場合の当苑の方針についてご理解していただき、それまでは当苑にてできる最善の支援を行っていくことを説明しています。尚、ターミナルケアは行っていない事についての説明・ご理解をいただいています。	・入居時の説明のほか、本人の状況（居室からデイルームまでの階段の昇り降りが厳しくなった等）に合わせ話し合いを繰り返している。医療優先を希望する場合は、本人にとって最良の移行先が決定するまで支援を続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応方法について定期的に職員会議にて確認を行っています。年に2回の防災訓練の際、AEDを用いた訓練を行うことにより、全職員が実践力を身に付けています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、入居者様・職員合同の避難訓練を行っています。地域の防災訓練にも参加しています。運営推進会議を通じ、地域への協力体制の意識付けをして頂けるよう努めています。	・BCP（業務継続計画）を作成している。今年度夜間避難訓練を行ない、職員2名での動き方等反省点を出している。 ・地域の消防団との連携が取れている。 ・備蓄はリスト化（食品は3～5日分）し保管管理をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の育ち、環境・性格等をよく理解したうえで、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っています。	・接遇やプライバシーについて職員会議で意見を出し合っている。職員同士がデイルームで利用者ケアについて話をする場合はイニシャルにすることを再確認している。職員対応で気づいたことはその都度注意喚起を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由時間はそれぞれがお好きなように過ごすようにしていただいています。自己決定のできない方や、一人で過ごすことに不安や危険が生じる可能性のある方は常に職員の見守りができる場所で過ごしていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴時間など一定の決まり事以外は各自思い思いに過ごしていただくことで、其々ご本人の希望にそって支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段からその方の趣味を考慮し、ご本人様と話し合いながら支援しています。ご自分での選択が難しい時にはご家族に相談したり、ご本人が入所時にお持ちになった衣類を観察しお似合いになる衣類購入等を行うようにしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食手作りの食事を提供し、職員も必ず同席し、同じ物を食し、できる方には食事の準備(もやしの根取り等)や食後の後片付け(お皿拭き等)のお手伝いをご一緒に行っていただいています。	・商店街で食材を購入し、手作りにこだわっている。利用者は準備から片付けまでの場面で手伝っている。食事は職員も同席し、会話を楽しみながら食事をしている。 ・誕生会はその日に祝う事にしており、ハンバーグ、すし等希望する献立を提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は職員会議等で確認し合い、栄養バランスを考え、各入居者様に適切な量の食事を提供しています。水分は定時にて摂取していただいておりますが、必要時は定時以外の時間にも提供しています。特に摂取が難しい方にはご本人がお好きな飲みものを提供する等の支援も行っていきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアは行っていただいています。ご自分では難しい方は職員が援助しています。必要であれば、訪問歯科医に連絡相談し、個々に応じたケアを実践しております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日の記録を参考に職員会議にて各入居者様に応じた排泄支援を行っています。現在リハビリパンツや失禁パンツ、軽い尿漏れ用パット等を使用されている方がおられます。	<ul style="list-style-type: none"> ・昼夜間を問わずトイレでの排泄を基本としている。自分のペースでトイレに行く場合も必ず職員が後始末等の支援をしている。 ・日々の記録から本人のパターンを探り、支援を継続したことで尿意や便意の感覚が戻ってきている事例がある。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便記録をおこない、職員間で申し送りを行っています。食物繊維が多く含まれている食材をふんだんに使った食事や、便秘がちの方には乳酸菌飲料の提供も行っていきます。ラジオ体操等の運動も毎日おこなっています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっており、各入居者様の好きな曜日、時間での入浴は行っていません。それでも入浴日を覚えてくださっている方はその日を楽しみにしてくださっています。入浴日以外の日には毎日全身整容(清拭)を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護度が高い場合も複数名職員介助により、湯船に入り体が温まるようにしている。 ・入浴日を固定にし、9名の支援をするが自動循環機能付きの浴槽で湯の清潔を保たれている。 ・自分の好みの石鹸やシャンプーを使う利用者もいる。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様に合わせ、ご自分で休息をとれる方はご自分で、認識することが難しい方は職員が適時声かけし休息していただいたり、眠気が観察された時に声かけし、入床を促すように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援に関しては定期的に職員会議で検討され、一人一人に合った服薬介助を行っています。新たに内服薬が追加された時は副作用がでないか特に注意して様子観察し、記録・申し送りを行い、副作用のような症状が出た時にはすぐに医師または薬剤師に相談するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会や季節の行事を行っています。誕生日にはご本人の食べたいものを伺い、提供するようにしています。日頃の生活の中では食事の後片付けや洗濯物たたみ等簡単な作業を行っていただいています。歌がお好きな方が多いのでカラオケを行って気分転換していただくようにも支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出は自由に行っていたが、日常では近所へ散髪や買い物に職員と行ったり、年に数回は行事として普段あまり行くことのできない場所へ出かけられるよう支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の中に事業所があるので、散歩がてらの買い物や散髪に行っている。 ・花見や地域の祭りに皆で出かけている。 ・個別の外出は家族の協力を得て、外食や外泊をしている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持ち、お金を所持されている方もいらっしゃいます。何か欲しいものがある時は希望の物を買うことができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやりとりができるよう支援しています。コロナ禍以降オンライン面会も随時できるようにしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場はできるだけ季節感を出すようにしたり、行事の写真を張ったり、レクリエーションで入居者様で作っていただいた作品を飾るようにしています。温度等は入居者様が快適に過ごせるよう温度・湿度計を設置し職員が常に調整しています。	・建物の老朽化は否めないが、清掃、換気、消毒を丁寧に行なっている。ぬり絵・キャンドル制作、行事の写真等飾るようにしている。居室（2、3階）から4階デイルームの行き来が、利用者の良い運動になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場では定期的に席替えを行い各入居者様が居心地の良い環境を作るようにしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置くものは入所時にご本人様がそれまで使われてきた物を置いていただくようにし、安心して生活していただけるようにしております。	・本人の趣味の作品、家族の絵画作品、家族の写真等、安心できるものを思い思いに飾っている。 ・防煙加工の障子戸のほか、日差し対策で防煙加工カーテンも付けている。 ・整理整頓や不足品の確認等職員間で協力をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室等には表示をつけ分かりやすいように工夫しています。洗面所には名前を付けた個々の手拭きタオルを設置したり、ご自分で口腔ケアできる方は口腔ケアセットを見え易い位置に置いておくようにしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ゆり苑

作成日 令和 6年 3月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		職員の資質向上のため、年間研修計画の策定に努める。	人手不足やコロナ禍により、近年は外部研修への参加が難しい状況だったが、今後は感染状況等鑑みながら外部研修への参加を積極的に取り入れるよう努める。	感染状況等を鑑みながら、対面での外部研修やZOOM等での受講が可能な外部研修への参加を積極的に取り入れた年間研修計画を立てる。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。